

まちでみつけた



まちで見つけた、子どもたちの笑顔を紹介します。投稿写真もお待ちしていますので、役場総務課まで送って下さい。



いい顔・かお

12月に入り「歳末助け合い運動」の声を聞くようになると、思い出すことがあります。

平成12年10月に起こった鳥取県西部地震で、会見小学校は大きな被害を受けました。8学級の児童に対して8つの教室を確保するのが精一杯で、保健室や職員室は渡り廊下の隙間風が入るような所にしか確保できませんでした。休憩時間になっても遊べる場所は少なく、特に天候の悪い日は悲惨でした。

しかし、有難いことに県内外から驚くほどたくさんのお見舞いや激励、校舎復興への協力をいただきました。

その会見小学校みんなが助けていただいている時に、歳末助け合い共同募金の依頼が来ました。当時職員は、「このあまりにもたくさん善意に囲まれて、子どもたちはもろうことに慣れてしまつてはいないだろうか。感謝することを忘れてしまつのではないか」と心配していました。

そこで、子どもたちに「今助けていただいていることへの感謝と、自分たちにできる歳末助け合い共同募金のあり方」について話をするようにしました。例えば、「一生懸命にお手伝いをして一日1円もろう。十日間がんばって貯めた10円を募金する」というようなことです。これは、「募金するから10円ちょ



子どもは地域の宝

～ 豊かさの中で ～

「うだい」と言つて家からもらってくる10円とは、まったく意味の違う10円になります。募金という目標をもつてお手伝いをし、労働の対価としての10円を人の役に立てていただく。「自分が役に立てた。して良かった」と思える募金にしたいと考えました。

その時の子どもたちがどのように感じ募金をしたのか記憶にありませんが、あふれた物や多くの善意の中で心が麻痺してしまうことを、私たち職員は恐れていたのだと思います。

今は望めばいろいろな物が手に入りますが、私が小さかった頃には、欲しい物があつても「正月まで待て」「盆まで、誕生日まで、新学期まで待て」と言われました。どこの家も貧しかったし、世の中に物が少なかったと思えます。しかしこの時、待つことを通して我慢を覚え、物を大切にしようと思つてくれました。

地域教育担当 唐来 秀夫